

令和4年度一般会計決算の概要

資料2

※（ ）内は主要施策報告書のページ

1. 決算の状況 (P3, P4, P5)

歳入決算額	23,581,280千円
歳出決算額	22,785,689千円
歳入歳出差引額	795,591千円
翌年度へ繰り越すべき財源	122,003千円
実質収支額	673,588千円

○歳入

市税全体で5.4%の増、交付税は、普通交付税が0.3%減、特別交付税が3.7%増となり、地方交付税全体で0.2%の増です。また、社会保障財源交付金を含めた地方消費税交付金が6.0%増となったほか、国庫支出金が16.7%減、県支出金が9.7%減、市債については臨時財政対策債等の減により43.4%減となるなど、歳入全体としては、前年度比5.5%の減となりました。

○歳出

新型コロナウイルス感染症の対策・支援等として、地方創生臨時交付金を活用し、キャッシュレス決済ポイント還元キャンペーン事業、子育て世帯への物価高騰対策特別給付金事業などを行いました。また指定避難所空調改修事業や宝満ふれあいセンター改修事業を行い、防災対策や施設の長寿命化を進めました。その他、都市基盤整備として、各路線の道路整備等を実施しました。

歳出全体では、前年度比7.3%の減となりました。

2. 市債と基金の状況 (P6)

(単位：千円)

	H30	R1	R2	R3	R4
地方債残高	17,771,404	18,495,912	18,461,298	18,199,153	17,328,416
うち臨時財政対策債	9,595,572	9,553,956	9,490,218	9,439,831	8,894,523
基金残高	3,069,252	2,907,891	3,910,625	5,362,968	5,964,949
うち財政調整基金	1,727,756	1,440,992	2,083,612	3,559,497	4,057,357

地方債残高は、前年度末より約8億7千万円の減となりました。

基金は、財政調整基金残高が約5億円増えるなどしたため、全体の基金残高は前年度末より約6億円増加しました。

3. 主要指標の状況 (P9, P10)

	H30	R1	R2	R3	R4
経常収支比率	98.6%	98.5%	97.0%	91.4%	92.9%
実質公債費比率	10.2%	9.1%	7.8%	8.0%	7.5%
将来負担比率	41.9%	41.5%	23.6%	18.7%	4.0%

財政の弾力性を示す経常収支比率は、前年度より1.5ポイント悪化し92.9%です。歳入における臨時財政対策債の減や、歳出における扶助費や物件費などに要した経常的一般財源の増などが主な要因です。

財政健全化判断比率は、いずれの比率とも早期健全化基準内です。実質公債費比率は、昨年度から0.5ポイント改善し7.5%、将来負担比率は、14.7ポイント改善され4.0%となりました。(実質赤字比率及び連結実質赤字比率は、黒字のため算定されていません。)

◎特別会計

(単位：千円)

区 分	歳 入 (A)	歳 出 (B)	差 引 (A)-(B)	翌年度へ繰り越すべき財源				実質収支
				継続費 通次 繰越額	繰 越 明許費 繰越額	事 故 繰 越 繰越額	計	
国民健康保険事業特別会計	5,811,738	5,572,695	239,043					239,043
後期高齢者医療特別会計	1,075,451	1,044,099	31,352					31,352
介護保険事業特別会計	4,550,672	4,488,283	62,389					62,389
工業団地整備事業特別会計	8,300	0	8,300					8,300